

令和 4 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	4 5		学校名	県立土浦第一高等学校			課程	全日制		学校長名	中澤 齊					
副校長名	片岡 達郎		副校長名	プラニク・ヨゲンドラ			教頭名	須藤 一道		事務(室)長名	大森 伸一					
教職員数	教諭	5 1	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師 実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	3	計	7 3
生徒数	小学科		1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		1 3 5	1 0 5	1 4 8	1 3 0	1 8 0	1 3 1			4 6 3	3 6 6	2 1			

2 目指す学校像

- ・豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、次代をリードする高い知性とたくましい心身を有し、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。
- ・教職員の共通理解の下、生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し、地域社会の期待に応える進路指導を実践する。

3 三つの方針（スクールポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	社会の発展に貢献できる人材を育成 1 高い知性とたくましい心身の育成を図る。 2 豊かな人間性の涵養と人格の形成を図る。 3 土一ネットワークを最大限に活用し、高い「志」に向けた進路希望の実現を図る。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	1 質の高い授業及び考査を実施し、主体的な学習態度を育成する。 2 部活動や学校行事を推進し、自主、協同、責任の精神を育成する。 3 キャリア教育を充実させるとともに、探究教育、グローバル教育、理数教育のさらなる深化を図る。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	1 好奇心旺盛で、何事にも興味関心を持ち、自ら考え、行動できる生徒。 2 集団活動の良さを理解し、他人の言動を受け入れ、協働することができる生徒。 3 自己の適性について考えることができ、その能力を社会のために生かしたいと考える生徒。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習指導	より高度で難易度の高い学習内容を求めて入学してくる生徒が多い。受動型からの学習スタイルの脱却を図り、主体的な学習スタイルを目指し、深い理解につなげている。一方、自信をなくしてしまう生徒もおり、学習のサポート体制の充実が大切である。	生涯の学びの土台を築くために、高校への学習スタイルの移行を丁寧に進めていく必要がある。学問本来の面白さに気付き、自ら学ぼうとする様々な取り組みをICT等の活用も含め、工夫していく必要がある。
進路指導	最難関の国公立大学や医学部への進学を希望する多くの生徒が入学してくる。OBOGとの交流機会を多く持ち、将来の職業を考える取り組みを大切にしている。生徒自身の将来の希望をかなえるため、さまざまな取り組みを行っている。	自分の適性を知り、職業を知り、進路目標を持つ。学年ごとに段階的な指導をしていくことで、将来の進路を考える機会を多くしている。自己肯定感や達成感を持てる活動がより大切になっている。
生徒指導	基本的な生活習慣が身についた生徒が多く、安全・安心に学校生活を送れる環境にある。一方、登下校時の自転車の乗り方やバス乗車のマナー、さらにSNS利用について、指導する機会が増している。	成人年齢も18歳となり、これまで以上に高校段階で知っておかなければならないことが増えている。HRや授業、集会等での指導がより大切になっている。
特別活動	文化祭、体育祭などの学校行事が生徒主体で企画運営されている。コロナ禍で制限があるが、集団活動を通して得られた達成感・自己肯定感で、何事にもかえがたい貴重な財産となっている。	学校生活をより充実させるために、学校行事や部活動はなくてはならない活動である。コロナ禍であるが、これまで大切にしてきた生徒育成の活動は、できる範囲で継続することが必要である。
働き方改革	生徒によりよい生活や学習の環境を提供するには、教員がゆとりとやりがいをもって指導に当たることが重要である。生徒や保護者の期待が大きく、それに応えようとするため、仕事量や時間が増加している。	ICT活用など労働時間短縮に向けた取り組みは行っているが、大きな時間短縮とはなっていない。創意工夫をこらした授業や考査問題の作成、多様化する進路への対応、部活動の指導など特色ある教育活動のために、業務改善の工夫が必要である。

4 中期的目標

<p>1 学校全体に関する目標</p> <p>1.1 信頼関係の育成: 教師と生徒の信頼関係を深め、心の居場所が確保出来る学年・ホームルームを運営する。</p> <p>1.2 ICT活用の推進: 授業改善を果たすと共に、生徒や教職員の情報活用への興味・関心を高める。タブレット等を駆使した新しい教授法の研究や展開、作業効率UPに努める。</p> <p>1.3 中高一貫校の推進: 高校と附属中学校が連携・協力し、互いの良さを学校の活力につなげ、生徒の一貫した育成につなげていく。</p> <p>1.4 本校魅力の発信: 入学希望者を増やすために、学校のHP・通信等を更に充実させ、本校情報を積極的に配信し、地域との連携を強化する。</p>
<p>2 生徒に関する目標</p> <p>2.1 進路意識の育成: 個人面談、キャリアガイダンスをより充実させ、生徒一人ひとりの高いレベルでの自己実現を支援する進路指導の推進。</p> <p>2.2 自ら学ぶ意欲の喚起: 学力向上に資する特色ある教育課程を編成し、思考力・判断力・表現力等を育むために、より効果的な教科指導を</p> <p>2.3 健全な心身の育成: 特別活動を充実させ、部活動・学校行事等を通して、自主自立の精神を培い、豊かな人間性を育む。</p> <p>2.4 教育相談の充実: 生徒の心情への理解を深め、より適切な指導・助言のあり方を求める。</p> <p>2.5 グlobalリーダーの育成: 独自の探究活動を展開し、世界の舞台で活躍できるリーダーの育成を目指す。</p>
<p>3 教職員・学校組織に関する目標</p> <p>3.1 働き方改革の推進: 教員の心身の健康維持とWLBの向上に努めると共に、時間的・精神的に余裕のある教育活動を展開できるよう努める。</p>

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
主体的学習態度の育成と質の高い授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。 ・主体的に学ぶ姿勢を育て、効果的な学習活動を支援する。 ・指導法の研究を各教科で行い、授業改善、指導力向上を図り、深い学びの場の提供に努める。
豊かな人間性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立に努めるとともに、部活動や委員会活動等への積極的な参加を促す。 ・いじめを許さない心や、他者を思いやる心の育成により、豊かな人間関係づくりを図る。 ・個別面談や教育相談を充実させ、生徒の悩みや問題の解決に向け支援する。
高い「志」実現に向けたキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ・生徒の自己理解を促し、高い目標設定と絶え間ない努力ができるよう、個別面談の充実を図る。 ・将来において、各界でのリーダーをめざすべく、個人の可能性を伸ばせるように支援する。 ・学びのプロセスを記述するキャリアパスポートの作成・活用を推進する。
探究活動及びグローバル人材育成を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を強く推進し、課題発見能力、課題解決能力の育成を図る。自ら調べ、考え、発表する姿勢を育て、主体的、対話的な深い学びにつなげる。 ・世界に通用する人材育成ができるよう、コミュニケーション能力、英語による発信力強化を図る。
学校情報の積極的発信と地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報を積極的に発信するために、学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ・地域とのコミュニケーションやふれあいの機会を大切にし、小中学校や近隣の方との交流を図る。
附属中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・高校と附属中のそれぞれの良さを学校の活力に結びつけ、学習活動や学校行事、特別活動の連携を強化し、さらなる進化・発展に努める。
I C T機器の効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・I C T機器の効果的な活用を通じ、生徒の学習理解を幅広くサポートする。 ・授業改善を考える手立てとして、先進的な事例紹介等の機会を増やし、研修の充実を図る。
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導等の質の維持・向上を図りつつ、業務の効率化を進める取組を推進することで、職員の負担軽減、環境改善を図る。 ・在校時間の自己管理や休暇が取得しやすい環境づくりを推進し、働き方の意識向上に努める。 ・衛生委員会等で超過勤務・ストレス等を把握し、課題の改善・解決に向けて取り組む。